自　己　評　価　表

（令和４年度）

愛媛県立小松高等学校
11

教育方針	国家社会の有為な形成者として、個人の尊厳と責任を重んじ、豊かな文化の創造と国家社会に寄与する、徳・知・体の調和の取れたたくましく生きる人間を育成する。	重点目標	**文武両道　人間力を高め合い　夢の実現を** **ー　伝統を継承し、地域と共に歩む　ー** １　誠実で礼節を重んじ、活力に富む健全な心身を養う。 ２　学習意欲を高め、自ら学び自ら考える力を養う。 ３　一人一人の個性を伸ばし、豊かな感性や創造力を養う。 ４　多様性を尊重し、互いのよさを生かして協働する力を養う。

領域	評価項目	具体的目標	評価	目標の達成状況	次年度の改善方策
学習指導	家庭学習の充実	一定時間机に向かう習慣が定着するよう、各教科で課題の出し方の工夫や個に応じた指導を行うとともに、各ＨＲ・学年で学習への意識高揚を図り、１日２時間以上の家庭学習時間を目指す。 Ａ：２時間以上、Ｂ:1.5～２時間、Ｃ：１～1.5時間 Ｄ:0.5～１時間、Ｅ:0.5時間未満	C	考査発表期間の平日では、平均２時間程度学習できたのは３年生のみ。休日の学習時間の平均は２時間以上達成しており、全学年大幅に増加している。特に、昨年度と比べ、３年生の伸びが顕著である。	家庭学習時間確保のため、各教科で課題の出し方の工夫をする。個に応じた予習・復習の方法を指導するなど、考査発表期間以外の家庭学習時間の増加を図りたい。
	教科指導力の充実	教科内及び教科間の情報交換や学習評価に関する研究を継続・発展させ、ＩＣＴ活用などにより主体的・対話的で深い学びとなるよう授業の満足度や学習意欲を高め、授業の改善を進める。	B	生徒の授業評価アンケートの全教科平均は５点満点中4.8で高評価であった。ＩＣＴの活用については、教職員の93%が有効活用に努めることができた。教科会等で授業力向上への情報交換や研究に努めているが72%で昨年とほぼ同じであった。	教科内及び教科を横断しての情報交換や研究を継続し、満足度を更に高めたい。ＩＣＴ活用の指導力向上を目指し、研修会や研究を行っていきたい。
		校内研究授業や相互参観授業で、年間４回以上授業を参観して、教科会や学年会などの研修も踏まえて授業力向上に努める。 Ａ：４回以上、Ｂ：３回、Ｃ：２回 Ｄ：１回、Ｅ：０回	C	校内研究授業や相互参観授業について、１人当たり年間平均約２回の参観にとどまり、目標を十分達成できなかった。	教員の意識向上を図るとともに、相互参観授業週間や研究授業の運営、実施方法の検討が必要である。諸行事との日程調整を行うなど、教員が参観しやすい環境づくりに努めていきたい。
	資格取得の奨励	各種検定の１級合格者延べ50人以上を目標に、個別指導等の徹底や資格取得への意識を高めることにより、上級資格取得の奨励に努める。基礎・基本、実務に役立つ２・３級の合格者を増やす。 Ａ:50人以上、Ｂ:40～50人、Ｃ:30～40人 Ｄ:20～30人、Ｅ:20人未満	B	１級合格者は、商業関係で３名、家庭科関係の合格者が45名となり、目標を達成することができなかった。商業においては、目標を大幅に下回ったが、実務に役立つ２・３級の合格率は上昇してきた。	資格取得は、視野を広げ、粘り強さも身に付くため、知的好奇心を持って取り組ませたい。上級資格取得は、進路実現にもつながることから、資格取得に取り組む生徒数の増加を図りたい。生徒在籍者数も減っており、目標値の変更も検討したい。
生徒指導	基本的生活習慣の確立	生徒の変化の兆候を早めに把握し、個に応じたきめ細かな生活指導と家庭との連携によって、全校出席率98%以上を維持する。 Ａ:98%以上、Ｂ:96～98%、Ｃ:94～96% Ｄ:92～94%、Ｅ:92%未満	B	全校出席率は97.3%で目標を達成できなかった。	１、２学期ともに欠席・遅刻等が増加している。個に応じた生活指導をきめ細かく行うとともに、長期休暇の過ごし方を含め、より高い意識を持って学校生活に取り組ませる指導が必要である。
		５分前登校指導を徹底し、遅刻ゼロの日70日以上を目指す。 Ａ:70日以上、Ｂ:55～70日、Ｃ:40～55日 Ｄ:30～40日、Ｅ:30日未満	C	遅刻ゼロの日は49日となった。生徒の多様化に伴い一部遅刻が多い生徒がいるが、ほとんどの生徒が５分前登校できている。	前年度よりも大幅に減っている。遅刻が続く生徒に対しては、遅刻の背景にある要因を考慮しながら、迅速に面談、指導を行う。担任・学年団を中心に生徒の実態に応じた指導を徹底して行いたい。
	生徒理解の推進	生徒一人当たり年間４回以上の面接指導を通して、生徒理解と指導に努める。 Ａ：４回以上、Ｂ：３回、Ｃ：２回 Ｄ：１回、Ｅ：０回	A	年間３回の面接週間を行っている。学年団を中心として、担任が適時、適切に生徒に向き合い、生徒理解に努めることができた。	次年度についても、担任・学年団を中心として継続して面接指導を行う中で、より生徒との関わりを深めていきたい。
	環境整備への主体的な取組	環境美化への意識を高めさせ、清掃時間だけでなく、普段から校内美化に努める。地域行事にも主体的・積極的に取り組む態度を養い、奉仕の精神を育む。	B	生徒の環境美化への意識を高めるため、清掃時は５分前に担当場所へ移動するように呼び掛けた。地域行事にはボランティアとして参加してくれる有志生徒が増えてきた。	美化委員会から全校生徒への環境美化を呼び掛けるなど、各クラスの美化委員が中心となった取組となるように工夫したい。奉仕の精神で活動できる生徒を増やしていきたい。

※ 評価は5段階（A:十分な成果があった　B:かなりの成果があった　C:一応の成果があった　D:あまり成果がなかった　E:成果がなかった）とする。

	ルール厳守とマナー向上	街頭交通指導の回数を増やし、ヘルメットの着用をはじめ、命の大切さについての指導を行う。交通ルールを遵守し、マナーを向上する態度を育成し、交通事故ゼロを達成する。	B	休日中の交通事故が一件発生した。通学時だけでなく生活の中でのヘルメットの着用、ながらスマホなど指導を続けたい。	ヘルメットの着用をはじめ、命の大切さについての指導を継続して粘り強く行うとともに、地域からの指摘に対しても巡視回数を増やす等の対応を継続していく。
進路指導	個に応じた進路保障	学年団と進路課が連携をとりながら、１年次から進路意識を高める指導を継続的に行い、充実した家庭学習に努めさせる。多様な入試（小論文、集団討論、プレゼンテーション等）に対応した力を育成することで、希望進路達成率100%を目指す。 Ａ:100%、Ｂ:90～100%、Ｃ:80～90% Ｄ:70～80%、Ｅ:70%未満	B	昨年度までと同様に、充実した家庭学習に向けての適切な指導が行えているとは言い難い。 なお、進路達成希望率については、91.0%で昨年度より４ポイント下がったが、進路実現に向けて、最後まで粘り強く取り組む生徒が見られ、結果にもつながった。	家庭学習時間確立のために、具体的な対策を立て、学校全体で取り組んでいきたい。
	進路指導力の向上	入試改革や学部・学科変更等の情報収集を行い、校内のネットワークシステムや教科会、学年会等を通して全体で共有する。	B	長期休暇中のセミナー(課外授業)時における部活動の実施方法や、３年生の放課後課外等、教科会・学年会等で十分な検討・実施ができた。	新課程入試まであと１年となる来年度は、様々な入試情報が明らかになってくると思われるため、今年度以上に情報共有に留意していきたい。
	キャリア教育の推進	語先後礼を徹底し、インターンシップの事前指導や取組、デジタルサイネージの活用等を通し、生徒が自ら考え、行動する力を育む。専門的な分野についての体験学習や、職場見学など、職業理解の機会を増やす。	B	語先後礼については、大半の生徒が実施出来ているが、まだ全員が無意識に出来ている状態ではない。 インターンシップは、家庭科１月末、普通科２月初めに実施予定である。事前訪問や事前準備等、順調に進んでいる。	継続して指導を続けていく予定である。
特別活動	部活動の充実	運動部各部において、計画的により充実した指導をし、３年間部活動を継続できる生徒を増やしていく。県総体出場100人以上を達成する。 Ａ:100人以上、Ｂ:80～100人、Ｃ:60～80人 Ｄ:40～60人、Ｅ:40人未満	D	県総体出場者は55名であり、目標人数に大きく及ばなかったが、バレーボール部男子が四国大会出場を果たした。人数がぎりぎりのチームもあり、全体的に部員不足になっている。一方で設置部のない個人種目で四国大会出場などの活躍があった。	部活動の精選を進めることで各部の部員不足解消を目指し、充実した活動ができるようにしたい。生徒には、3年間継続して活動することの意義を伝えていきたい。
		文化部各部において、計画的により充実した指導をし、３年間部活動を継続できる生徒を増やしていく。また、愛媛県高等学校総合文化祭等において、４つ以上の部と20人以上の参加を目指す。 Ａ:４つ以上の部で20人以上参加 Ｂ:４つ以上の部で15人以上の参加、又は、３つの部で20人以上の参加 Ｃ:３つ又は２つの部で15人以上の参加 Ｄ:２つの部で15人未満の参加 Ｅ:Ｄ評価に届かない場合	A	愛媛県高等学校総合文化祭において、四つの部で21名の参加となり、目標を達成できた。その中で吟詠剣詩舞が令和5年度の全国高文祭の出場権を得た。	3年間継続して活動することを推奨し、計画的で充実した指導を目指し、引き続き、総合文化祭等において20人以上の参加を目指していきたい。
	生徒会活動・家庭クラブ活動 委員会活動の活性化	生徒の自主的な計画・運営による生徒会活動、委員会活動、家庭クラブ活動をそれぞれ月１回以上実施し、更なる内容の向上を目指す。 活動を通して、お互いのよさを尊重し生かし合って協働する力を養う。	B	生徒会活動は、コロナ禍の中担当教員の指導のもと積極的に活動できた。委員会活動、家庭クラブ活動については、概ね目標を達成できている。	引き続き生徒の自主的な計画・運営をサポートし、生徒会・委員会活動充実のため、各種委員会を月１回実施する。
	自主的な奉仕活動	年間５回以上の奉仕活動、地域清掃活動を目指し、豊かな人間性の育成を目指す。生徒への各種ボランティア活動案内を広め、生徒全体の参加意識を高める。また、生徒全体の参加意識を高め、地域に貢献しようとする態度を養う。 Ａ:５回以上、Ｂ:４回、Ｃ:３回 Ｄ:１～２回、Ｅ:０回	A	少しずつ、日常を取り戻していく中、コロナ禍により、中止になったものもあったが、竹林整備、古民家や墓地の清掃などの活動が有志によって10回行われた。生徒にとって奉仕の精神、人間性を育てる大事な機会だと思うので、今後も継続して実施できるよう、取り組んでいきたい。	奉仕活動や地域清掃活動は豊かな人間性を育成する貴重な機会であるため、どのような活動が行われているかを取りまとめ、積極的な参加を呼び掛けたい。また、地域清掃活動が中止となった場合には、できる限り適切な時期に実施したい。

※ 評価は5段階(A:十分な成果があった B:かなりの成果があった C:一応の成果があった D:あまり成果がなかった E:成果がなかった)とする。

人権・同和教育	人権・同和問題学習の積極的推進	人権・同和教育ホームルーム活動に加え、多様化する人権課題に対する生徒・保護者への啓発活動を充実させるとともに、現地研修会などに積極的に参加し、生徒に主体的に人権問題に取り組む姿勢を身に付けさせる。	B	対外的な活動や校内行事は少しずつ本来の形に戻りつつある。生徒の人権作文発表や人権標語・人権ポスター展示も再開し、ＰＴＡ広報誌も継続して発行することができた。	ヤングケアラーや子ども食堂に対する理解や支援など、人権委員会の活動を地域の啓発活動に生かしていけるようにしたい。
広報・地域協働	地域に開かれた学校づくりの推進	「学校案内」や「ライフデザインだより」等の発行物で必要情報を伝え、ホームページでよりタイムリーな情報発信を行う。校外活動にも積極的に参加して地域と協働した取組を通して、生徒が地域を知り、地域を誇りに思い、地域に貢献できるよう努める。そのことで、地域に信頼され、親しみやすく開かれた学校づくりに目指す。	B	「学校案内」「ライフデザインだより」等の発行物で情報を的確に発信できた。「学校案内」は内容を大幅刷新した。ホームページは、新しく構築したものを改善し、行事の前に参加を促すお知らせなど継続して更新した。普通科は「私たちにできるローカルアクション」を随時掲載することができた。	発行物やホームページを通じて、よりタイムリーな情報を発信していきたい。「学校通信」の発行が少し遅れることがあったので改善していきたい。これからも小・中学校との交流を図るなど、地域に開かれた学校づくりに努めていきたい。
	地域に根ざした特色ある学校づくりの推進	ＰＴＡ・同窓会や地域の諸団体と協力し、「総合的な探究の時間」や課題研究で、地域人材を活用した体験学習を実施する。特に、昨年度まで取り組んだ文部科学省の「地域との協働による高等学校教育改革推進事業」内容を整理して持続可能なものにする。また、ＳＤＧｓの観点を踏まえた授業や地域と協働した地域貢献活動等を積極的に実施し、特色ある学校づくりに努める。	B	地域の様々な方面の方々と協働し、地域人材を活用した講演会や実践を行うことができた。特に、ライフデザイン科では、文部科学省指定の「地域との協働による高等学校教育改革推進事業」の完成後も、地域と連携して、「椿文化」「魚食文化」「はだか麦」の普及活動を行うなど、特色ある学校づくりを継続している。普通科では、地域の人たちと関わりを大事にしてＳＤＧｓに積極的に取り組むことができた。	「地域との協働による高等学校教育改革推進事業」の活動を継続し、積極的に社会と繋がる活動を行っている。また、持続可能な開発目標の観点から、竹林整備活動を発展させた取組への挑戦（竹を使う活動等）、商品開発やイベント参加など生徒が主体的に活躍できる場を提供していきたい。
業務改善	適切な勤務時間	教職員の定時退勤日の設定や部活動の休日の確保などにより、教職員の勤務時間を守る。また、ＩＣＴ導入で業務の効率化・平準化を図り、時間の有効活用を推進する。 毎月、１回は「はよ帰るデー」を設定し定時退庁のびかけを行い、ワーク・ライフ・バランスを目指す。	B	校務系によるメッセージ機能やアンケートの実施、掲示板による情報共有により、会議時間の短縮を図った。勤務時間の超過が顕著な先生方には面談等も実施し、業務改善などの工夫へ促すことを適宜行った。	定時退勤の設定日を、月に一度以上は行えるような雰囲気を醸成していかなければならない。また、テレワークの活用を勧めたりして、更に時間の有効活用を図り、ワーク・ライフ・バランスの向上を目指したい。
	職場環境の整備	健康講座や健康相談を定期的に実施したり、休憩場所の環境改善を行ったりすることで、教職員の疲労や心理的負担の軽減を図る。 男性休養室の整備も行い、教職員全員が適宜くつろげる場所を設けることで、より働きやすい環境作りを目指す。	B	健康相談の資料の提示や学校医との健康相談などを行った。また、職員室の床の修繕中である。また、校内の教員研修でグループワークを行い、交流を図る機会を持つことができた。	日常的なコミュニケーションを大切にし、教職員が支え合い、助け合える人間関係を築くとともに、教職員のメンタルヘルスケアに取り組み、心身ともに充実した職場づくりに努めたい。

※ 評価は5段階（A：十分な成果があった　B：かなりの成果があった　C：一応の成果があった　D：あまり成果がなかった　E：成果がなかった）とする。